ほとけの混和会だより

平成二十四年一月
東光院
仏の混和会
第88号

檀信徒各位様に於かれましては、つつがなく新春の寿ぎを迎えられた事と、お喜び申し上げます。

旧年中は、公私にわたり大変お世話に成りました、心より感謝申し上げます。

お陰様で、東光院、院内一同、無事に御仏の道を歩ませて頂いております。誠に有り難い事と存じます。

本年度も檀信徒各位様の、ご健康とご多幸を、お祈り申し上げるとともに、それぞれの心に光る、仏性をよりどころとして、更に、ブッダ釈尊の御教え、法を灯明として、共に精進して参りたいと存じます。

合掌

右の写真は、比叡山の根本中堂と、その中に一千二百年、灯され続けている、お灯明です。

自灯明法灯明（じとうみょうほうとうみょう）

「灯明とは、生きる事の指針」

ブッダ「釈迦牟尼世尊」は、弟子のアーナンダと共に、長い間布教の旅を続けてこられましたが、いよいよ晩年を迎え、己の死期を感じたブッダは、弟子のアーナンダに言いました。

「アーナンダよ、そなたは良く私に尽くしてくれた、その功徳は、やがて報いられ聖者の境地に達するであろう、私は今夜半入滅する」と言われました。

すると、アーナンダは、「私はブッダをよりどころに生きて来ました。ブッダが入滅されたら、私は何をよりどころに、修行を完成すれば良いのでしょうか？」

ブッダは、「嘆くでは無い、自らを灯明とし、私の教え法を灯明として修行に励みなさい」『自灯明、法灯明』と、言われたのです。

私は、このお言葉を、ブッダの遺言として受け止めたいのですが、未熟な私にとっては、なぜ自分をよりどころとして灯明としなければ成らないのだろうか、他をよりどころとして、なぜいけないのだろうか、長い間の大きな疑問の種でした。

そんなある日、次のような言葉に触れる事が出来ました。

「直指人心見性成仏」（じきしにんしんけんしょうじょうぶつ）

自分の心の奥底に秘在する、本当の自分、すなわち人間が生まれながら持っている慈愛心、仏心を感得することが大事なのですよ、他と比べ無い、あるがままの自分を見定めた時、真の安心が得られますよと言うのです。

先ず己自身の仏性に目覚める事が大事なのですね。

ブッダの御教えのままに、いくら善い行いをしても、己の心に、真の仏心が抱けていなかったら、それは、押しつけがましい、偽善に成ってしまいます。

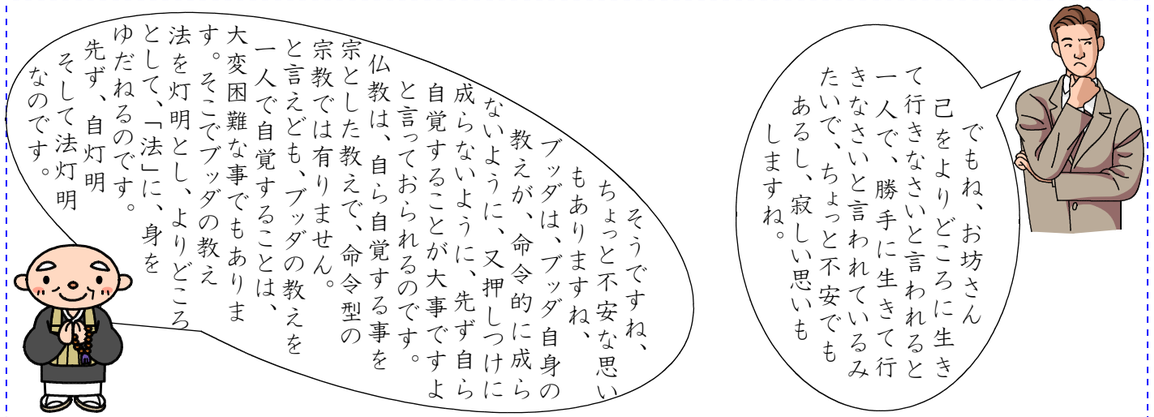
ブッダは、先ず、人間として、己の仏心を見定める事が大事な事なのですよと、強制的にブッダの教えを、押しつけるような事は、されなかったのです。

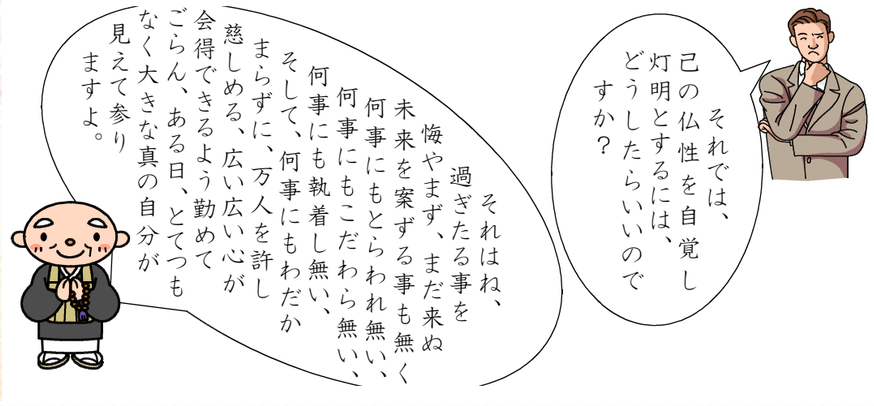
己の仏性を見定めた上で、ブッダの教え「法」を灯明として生きて行きなさいと言っておられるのです。

法句経の160番に「己こそ己のよるべ、己をおきて誰によるべぞ。よく整えられし己こそ、まことに得がたき、よるべなり」とありました。

私達は世間の価値観に振り回され、本当の自分を見失ったまま生きて居るように思われます。このような社会に於いては、釈尊の言われるように、先ず、しっかりと、真の自分を見定めたうえで、ブッダの御教えを灯明として、道を歩む事が肝要かと思います。

平成二十四年度の目標
「共に生きる ほとけの家族の構築」と定め、努めて参りたいと存じます。





平成二十四年度の目標「共に生きる ほとけの家族の構築」

昨年は、東日本の大震災に原発事故、更に豪雨と様々な災害が起きてしまいました。

しかし、人々は一年の出来事を漢字一字で「絆」と表現されました。

何があっても前向きに生きて行きましょうと、共に生きる事の尊さを再認識されたように思われます。

昨今日本の社会は大家族が崩壊し核家族となり、更に家族も崩壊し孤独社会と成ってこの絆が薄らいでしまいました。

このような社会であっても、前向きに「絆」を大事に、共に生きる環境を築きたいものと一人、久しく思いを巡らして参りましたが、一向に前に進みませんでした。

そこで、本年度は決断の年と定め、他人同士であっても、共に他の幸を念じ、共に他の幸を喜び、悲しみも喜びも共に分かち合える環境と成るよう「共に生きるほとけの家族」と言うようなものを築いて参りたいと存じます。

具体的に何を考えているかと申しますと、何時でも共に集える環境と成るよう、お寺以外の所に、寺子屋のようなものを築き、食事などを共にしながら、安心の抱ける、家族と成るよう勤めて行きたいと思っております。更に、そこが「共に生きる」環境と成るよう、ささやかでも農産物等の直売所と成ればと思っております。

檀信徒各位様に於かれましては、お智恵、又ご指導賜れましたなら幸いに存じます。合掌

『節分会』

二月三日（金曜）
午後三時半より

招福を祈念して、
豆まきを致します。
皆様のお参り
お待ち申し上げます。

東光院
電話 0476(46)2471